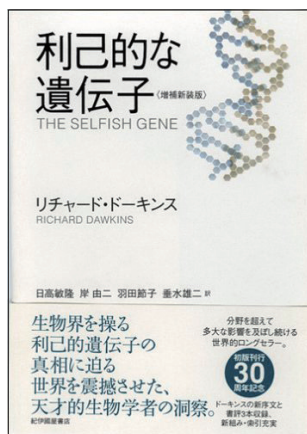


## ■私の役に立った本

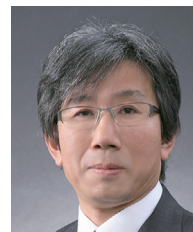
真崎仁詩のおすすめ  
JXエネルギー(株)中央技術研究所 フェロー

分野：ライフサイエンス  
書籍名：利己的な遺伝子  
著者名：リチャード・ドーキンス  
出版社：紀伊国屋書店  
出版年：1991年  
価格：2,800円(税別)

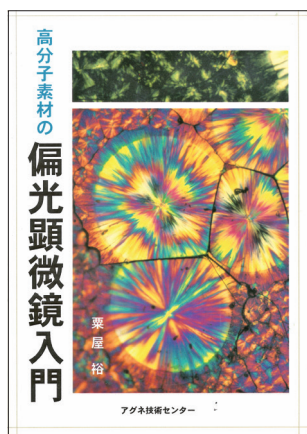
中学生の頃にはまった本は吉川英治の「三国志」。恥ずかしながら文章を読むのは国語の勉強のためとしか考えていなかった自分に、純粹に読書が楽しいものだを教えてくれました。史実からは離れていると言われますが、「三顧の礼」、「馬謖を……」という故事にもなっている言葉は今でも折にふれて脳裏をよぎります。息子もその年頃になりこの本を強く勧めたところ、「戦争を否定するのに、なぜいくさの本を読ませようとするのか」と拒否されてしまいました。理屈ではありません。

というわけで次に挙げるのが会社に入って間もない頃出会った「利己的な遺伝子」。遺伝子は自分が生き延びる戦略を最優先でとり、人間の体もそれを具現化する一時的な手段に過ぎないという。主従の見方が逆です。利他的な行動もまわりまわって自分(遺伝子)を利するためだ、といったことを滔々と述べ立てる。疲れるが、理屈に弱

い理科系としては耐えられる範囲かと。自分(人間)はわがままで打算的な小さい人間だと思ふことが間々ありましたが、読み終えたとき、生き物とはそうしたもので、あるがままでいいと思えたとき、肩の力が抜け晴れた気分になったのを覚えています。当時を思いめぐらせているうちに、我々は高分子を操ろうとしていて、実はDNAという高分子に操られて研究をしているのかも改めて思ったりもします。



## ■私の役に立った本

宮元展義のおすすめ  
福岡工業大学工学部 准教授

分野：高分子科学全般  
書籍名：高分子素材の偏光顕微鏡入門  
著者名：粟屋 裕  
出版社：アグネ技術センター  
出版年：2001年  
価格：3,400円(税別)

15年ほど前、無機層状物質を液晶に変換できることを偶然見つけた。層状物質結晶から得た無機ナノシートコロイドを偏光板に挟むと、試験管の中でゆらゆらと動く美しい虹色の干渉色が現れて、心躍った。しかし、無機合成化学の研究室出身の私には、高分子や液晶には縁がなく、研究は手探り状態。そんな中、剛直高分子溶液などを取り扱う理論や手法が、自分の系を理解するために役に立つと気づき、勉強を始めた。

液晶や配向高分子の研究では偏光顕微鏡が欠かせない。しかし、電子顕微鏡などの詳しい原理やテクニックは知っていても、あまりにも身近過ぎる光学顕微鏡は、意外と、まともな使い方を知らない。複屈折とは何なのかすらよく知らなかった私にとって、本書はとても良い入門書であった。レターデーションと干渉色の関係、複屈折測定、コノスコープ、波長板の使い方など

を理解するうで大変役に立った。理論の章は化学者向けに平易に書かれており、またカラフルな写真とともに紹介された多くの事例は、面白く、わかりやすいものであった。

その後、散乱法や粘弾性測定などを利用して研究を進めているが、サンプルを作らずに最初のことといえば、手作りの「クロスニコル箱」と偏光顕微鏡での観察。ブラックボックスと化してしまうこともある高価なハイテク技術よりも、100円で誰でも作れるわかりやすいローテク装置が役に立つというのは、良い教訓でもあるかと思う。

